

平成 29 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：鹿児島県

市町村名：南種子町

島名：種子島

協定締結集落名：南種子集落

交付金額合計：7, 811, 933円

(1) 基本交付金：7, 811, 933円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：48世帯、48人（うち漁業世帯48世帯、48人）

2. 協定締結の経緯

南種子町は三方を海に囲まれ優良な漁場が多く、これまで漁業世帯個々が海域環境の管理を行っている現状にあったが、近年水産資源の減少や魚価の低迷、また漁業者の減少や高齢化等の課題を抱えているため、水産資源の豊富な優良漁場の形成や、魚価の安定化を図ることなどを目指して、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

近年、魚介類の漁獲量が減少している状況のため、カナコ籠・イカ柴の投入によるイカの産卵場・育成場の整備、藻場増殖プレート等の設置・移設による藻場の再生、サメ駆除による資源管理、種苗放流（トコブシ稚貝・イサキ稚魚）等、漁場の生産力の向上に関する取組を実施することにより、地域漁業の活性化を図ることを目指した。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

南種子町漁業協同組合主催の「お魚祭」に協賛として参加し、魚食普及活動・子どもたちによる魚のつかみ取りを行い、魚とのふれあい活動を実施した。

その他生産・流通に関する取組として、先進事例視察（岩ガキの養殖等）やタルメの試食販売を鹿児島市において実施した。

③新規就業者に係る取組状況

今年度は、取組なし。

4. 取組の成果

①漁場の生産力の向上に関する取組の成果

イカの産卵場・育成場の整備事業については、前年度投入したカナコ籠の引き上げを行ったところ、産卵の痕跡が多数みられた。

藻場増殖プレートについては、広田浦の沖合に150枚のアミノ酸入りプレートを設置、昨年、牛野港沖合に移設設置したプレートの追跡調査も実施した。また、シェルナースを島間海岸から牛野沖合に移設し、新たに島間海岸に10基を設置した。種苗ブロックも40個を購入し、3ヶ浦に設置した。今後の藻場増殖・再生への効果を期待したい。

サメ駆除については、集団駆除を8箇所で行った。11月に7日間、3月に1日間実施し、買上げを含め、合計141匹のサメを駆除した。

なお、買取価格については、尾鰭30cm未満は1,000円/匹、30cm以上50cm未満は3,000円/匹、50cm以上とマオナガについては、5,000円/匹と定めた。

駆除後、数日間はサメによる被害がなかったことから、定期的に行い漁場の保全を図ること、生産力向上に繋がることがわかった。

種苗放流については、トコブシの稚魚を島間浦と牛野浦・広田浦に計15,000個、イサキの稚魚を竹崎に3,000尾放流した。

②漁場の再生に関する実践的な取組の成果

現在、ナノバブル発生装置を使用し、魚の鮮度保持を行うことで、魚価の安定化及び安定供給が図れるよう取り組んでいる。

ナノ・フレッシュャーを使用している船舶もいることから、魚価の安定・向上のためにも、今後も漁協・漁民との連携・調整を密に図ることとした。また、ナノ・フレッシュャーを使用している鮮魚等の区分が現状ではなされておらず、集荷する際に目印等をつけ、区分するよう取り組むこととした。

また、近年は消費者における安心・安全を求めるニーズが高いため、生産者・販売者が協力しながら南種子産の魚をブランド化し、販路拡大につなげていきたい旨も話し合った。

漁協との協賛で魚食普及を図るため、アサヒガニ味噌汁の提供と子供たちを主体とした魚のつかみ取りを実施した。アサヒガニのおいしさを伝えることや子供たちが魚と触れ合うことにより、将来にわたっての、町内や島内での消費拡大につなげることができた。

鮮魚販促会については、タルメの試食販売を実施した。ほとんどが県外へ出荷されており、県内ではあまり馴染みがないことから、県内での消費拡大につなげていきたい。

先進事例視察については、県水産技術開発センターにおいて、岩ガキの養殖について研修を行った。

【イカ柴投入】



【藻場増殖プレート移設・追跡調査】



【サメ駆除】



【種苗放流】

